

## 29 地域と子どもと育ちあう場

### ○開催目的

少子・核家族化によって、地域のつながりをつくりにくく、子どもが育つ環境が変化しています。その中で、自分たちが暮らす身近な地域で、地域と連携をしながら、子どもが育ちあう場をつくる取り組みが行われています。

地域住民や親同士、行政との連携などさまざまな人たちとのつながりをつくって、地域と子どもが育ちあう場を考えていきます。

### ○開催日時

2月13日（土）14：30～17：00

### ○参加者数・出演者・団体

参加者数：16名（参加者9名、出演者3名、スタッフ4名）

出演者・団体：岡本 千栄子さん（NPO法人こどもの遊びと育ちを支える会  
・こまえ 理事長）

幸野 知恵さん（NPO法人こどもの遊びと育ちを支える会  
・こまえ 理事）

吉田 貴文さん（NPO法人せたがや子育てネット 若者担当理事  
/ せたがや子ども・ワカモノねっと）

### ○プログラム内容・成果と課題

#### 1 開会・趣旨説明

#### 2 登壇者からのお話し

- ・プレイパークって何？  
なりたちと各地域での活動
- ・「狛江プレーパーク」について  
これまでのあゆみと、活動への思い



#### 3 フィールドワーク

オープン間近の狛江プレーパークを見に行こう！



#### 4 参加者をまじえてフリートーク

～話し合われた主なテーマとキーワード～

○自己紹介、参加の動機、フィールドワークの感想

○ボランティアな活動、続けていく工夫は？

キーワード：仲間づくり、やりがい、お金のこと、  
人のこと、活動を伝えていく必要性…

○地域の中でみんなの活動をするために

キーワード：リタイアした方、特技を生かして…、多世代…

保育園・幼稚園との連携、一緒に地域を創っていこう

○変えるのではなく、関わって一緒に変わる



#### ◎成果と課題

地域でプレーパークの活動をする人、子育て関係の仕事や活動をする人、保育園に通う子どもの保護者、地域でボランティア活動をする人など、さまざまな参加がありました。

登壇者からプレーパークについて想いや苦労話を交えて聞いた後、オープン間近のプレーパークに足を運んだので、利用する人や地域の人へのさまざまな配慮や工夫を知り、それらが具体的にどのような形になるのかを体感することができました。また、地域の人々の理解や協力を得ながら、これから形づくられていくことも共有し、プログラム後半への結びになりました。

後半は、さまざまなバックグラウンドのある参加者自身の体験や悩みも織り交ぜながら、一つひとつについて登壇者と参加者とで一緒に考える形のフリートークとなりました。分科会のテーマである「地域と子どもと育ちあう場」について、特に地域の人との「関わり」について深めて話し合い、「変えるのではなく、関わることで一緒に変わっていく」という登壇者からの印象的な言葉もありました。参加者からは、「子育てに関わる人の横のネットワークづくり」など、プレーパーク以外にも具体的な形の提案もありました。

## ○参加者の声

- 立ち上げの経緯から今の問題点まで細かく知り、他の方との話し合いまであり有意義な時間でした。
- プレーパークをスタートさせようとしているメンバー、すでにスタートさせている人これからチャレンジしようとしている人！何が必要で、何が大事か！具体的に形として見えてきました。
- 保育を充実させる活動をしていますが、保育が広がるほど地域と子ども達と親が育ちあう場がどんどんなくなっていくという矛盾を感じています。保育所に預けているけれど、地域と関わりたいし、地域で育ててほしい。プレーパーク以外の形でも地域と子どもの育ちあう場があると思うので、考えるきっかけになればなと思います。

## ○担当者・記録

《担当》

志田 五十鈴（こまえボランティア・センター）

栗澤 稚富美（公益財団法人社会教育協会 ひの社会教育センター  
子育てカフェ「モグモグ」）

上田 英司（NPO 法人 NICE）

圓藤 理江（東京ボランティア・市民活動センター）

《運営サポート》

こまえボランティア・センターのみなさん

小杉 弘美（運営ボランティア）

森田 美穂（東京ボランティア・市民活動センター）

《記録》

栗澤 稚富美（公益財団法人社会教育協会 ひの社会教育センター  
子育てカフェ「モグモグ」）